令和６年度 荒尾市総合教育会議 会議録

１．日　　時　　令和６年１０月２９日（火）午後２時～午後３時５０分

２．場　　所　　荒尾市役所　市長公室

３．出 席 者

	荒尾市長	浅田　敏彦
	荒尾市教育長	浦部　眞
	荒尾市教育委員	渡邊　義専
	荒尾市教育委員	深浦　淳美
	荒尾市教育委員	谷本　ひとみ
	荒尾市教育委員	落合　克哉
（オブザーバー）	副市長	田上　稔
（事務局職員）	総務部長	石川　陽一
	総合政策課長	中山　創
	総合政策課政策推進室長	林田　真司
	総合政策課政策推進室	田村　政也
	観光文化交流課長	宮脇　浩司
	教育審議員兼学校教育課長	大塚　真史
	教育振興課長	満永　一
	学校教育課指導主事	村上　弦大
	学校教育課指導主事	那須　ひろ美
	学校教育課指導主事	高山　和宣
	生涯学習課長	原口　富美
	教育振興課教育政策係長	坂本　綾

４．傍聴者　　無し

５．議事

（１）講演「WING SCHOOL における教育活動について」

講師：一般社団法人 WING SCHOOL　校長　田上　善浩

６．議事経過の概要

以下のとおり

〇議事経過の概要

１．開会

中山総合政策課長が、開会の宣言、配付資料の確認を行った。

２．市長挨拶

浅田市長が、挨拶を行った。

＜挨拶要旨＞

・日頃から教育行政へ尽力いただいている先生方へ感謝申し上げる。
・本会議は教育委員会と市長部局が教育政策について、同じ方向を向いて進んでいくための会議である。
・子どもたちの多様性に応じて、場合によってはサポートが必要な場合も増えており、本市においても児童指導員を配置している。
・今回は子どもたちの個性に応じた、独自の教育を実践されている WING SCHOOL 校長の田上善浩氏をお呼びしている。同校における実践に基づいた教育の話を聞くと共に、本市の教育にも生かしていただければと考えており、皆様には忌憚のないご意見やご質問をお願いしたい。

３．総合教育会議について

参考資料１に基づき、令和３度策定した「荒尾市教育大綱・第２期荒尾市教育振興基本計画」の概要を確認した上で、本日の総合教育会議の役割について、林田政策推進室長が説明した。特に質疑等はなかった。

４．議事

（１）講演「WING SCHOOL における教育活動について」

一般社団法人 WING SCHOOL の田上善浩校長に演題について講演いただいた。その後、各委員や出席者からの質問に対し、田上校長から回答いただいた。

＜講演内容（要旨）＞

・公立中学校に 29 年間勤務。自宅を開放して先生向けのサークル・セミナー活動等を実施して、技術の向上や情報交換を図っていた。
・定位置で継続した情報発信ができる場として WING SCHOOL を開校。
・学校では子どもたちが企画・立案に携わる機会が多く、積極的かつ楽しく学校生活を送っている。
・日本の若者は自己肯定感が低いという調査結果がある。社会問題の解決に寄与したいと考える人も 10%程度であり、教育により主権者意識も育つと考えている。
・昨今は学校を長期欠席する子が増えており、通常は学校に戻そうと試みるが、自分らしく輝ける学校を選ぶ子が増えており、WING SCHOOL には遠方から通う子も多い。
・教育は「創性・知性・感性」を育むことが必要だが、３つ全てが揃った学校は少ない。全て揃って幸せな未来を築く力となり、一人一人が自分らしく輝く新しい時代につながる。
・授業は公立学校等と同様のカリュキュラムで行い、教科書も使用する。

昨今、自然体験をしたことがない子どもが増える中、当校では様々な体験やその他チャレンジする機会が得られる。一人一人の個性が強く、チャレンジする内容も様々。

・修学旅行は子どもたちが旅程や宿泊場所まで全て企画し、旅費も自分たちで稼ぐ取り組みを行っている。失敗もあるが、それも含めて次の学年に伝えている。

・オルタナティブスクールの課題として、公立学校において出席や評定のの取扱いについて、学校により対応が異なる。

＜主な意見等＞

谷本委員	WING SCHOOL ではオーガニック給食を提供しているとのことだが、きっかけはあるのか。
田上校長	食の改善で妻の体調が好調したことがあり、食の重要性を認識した経験がきっかけである。食材にもこだわっており、子どもたちからも好評である。給食費は 6,000 円/月・人でやりくりしており、食材の供給も安定していないため、キッチンスタッフの技量のおかげで安価かつ安定して供給できている。
深浦委員	卒業生の累計は何人か。また、卒業後に再度引きこもりになってしまったケースなどはあるのか。
田上校長	開校 7 年目で 100 名を超えている。在学中に企画力が培われるため、人前に出てリーダーになる子が多く、卒業・進学後に生徒会長になった子もいる。現在、多様な子どもたちがいる中で、それぞれに合った場を与えれば活動的になる子どもが多いと感じている。
深浦委員	引きこもりがちな子やおとなしい子どもたちも、活動的な子と一緒に生活することで変わることがあるのか。
田上校長	学校で共存して活動する中で、何かのタイミングで変化が生じることがある。低学年で入校した子は早期に変化が生じる傾向にあるが、高学年で入校すると変化に時間が要する場合もある。食生活で改善するケースもあるが、精神的に大きなトラウマを抱えていたり、医療分野に係る問題を抱える場合は、学校生活だけで改善するのは難しい。
落合委員	学校でも学ぶものは、学力、体力、教養であり、どこの学校でも一緒だと思っていたがお話を聞いて認識が変わった。児童・生徒たちが文化祭などの学校活動でお金を稼ぐ体験をすることは可能か。

大塚審議員	中央小学校では児童たちが企画･運営をして中央感謝祭というイベントを開催しており、府本小学校では地域の方と協力してマルシェを行っている。学校活動の中で体験することは可能であるが、実施については各学校に委ねられている。
田上校長	公立中学校時代の事例として、疑似ショッピングモールを開催し、店員等の役割分担、疑似通貨を用いた売買、また、テナント料の支払い、納税等の流れを生徒たちに体験させたことにより、商売やお金の大切さを感じてもらった。 「創性・知性・感性」の３層全てを学校で担う必要はないと考える。感性の育成が不足する場合は家庭で担うなど、総力戦で教育に取組めれば良いと考える。
渡邉委員	「状況に応じた授業時間の調整」など、先生の裁量を大きくしても良いのではないかと考えている。どうすれば、先生がより一層、楽しく子どもたちと向き合えるのか。
田上校長	私は末っ子で年下の人との対応経験が余りなかったが、学生時代に人形劇サークルに参加し、子どもたちとふれあう経験ができた。まずは先生たちに授業の優良事例等を見て、イメージを持ってもらうと共に、教育現場に憧れを持ってほしい。本来であれば教員養成課程で体験できるのが望ましい。ただし、教育はイメージだけでは実践できない。当校では毎週木曜日に、他の先生の授業を見学して意見を出し合っている。
浦部教育長	先生たちも教育において、子どもたちだけでなく、先生や地域の方々にとっても「楽しさ」が重要との認識は持っていると考える。
渡邉委員	不登校の子どもだけでなく、その親も苦しんでいると思われるが、保護者との関係性の構築やケアはどのように行っているのか。
田上校長	公立学校の教員だった頃から、子どもが変われば親が変わるものと考えている。学級通信で楽しそうな子どもの写真を掲載すると、親から感謝されたこともある。子どもが家庭で学校生活を楽しそうに話すことで喜ぶ保護者の方もいる。ただし、親のやる気や期待が過剰すぎると子どものやる気を削ぐ可能性もある。単に自由にさせるのではなく、チャレンジする機会を与えれば、子どもたちはやる気を出して取り組んでいく。また、やる気を出すタイミングは１人１人異なる。
村上指導主事	WING SCHOOL で行われているセルフティーチングとはどういった内容か。また、授業の内容についてもご教示いただ

	きたい。
田上校長	WING SCHOOL では勉強の準備運動として 30 分間の自習時間を設け、9 時半から授業を開始する。始めたきっかけは、子どもの発達に係る専門家の研修であり、いきなり授業を始めるより、ウォームアップの時間があった方がスムーズに始められるというものだった。とある保育園では、先生と子どもたちが毎朝、体を動かして遊ぶ時間を１５分間設けたことで、子ども同士のケンカなどのトラブルが減った事例がある。授業について、例えば歴史教育では根本的な理由を示して、現状や未来について考える参考になるように行っている。
高山指導主事	5 年ほど前にも先生のお話を聞く機会があったが、この 5 年間で特に変わったことはあるか。
田上校長	WING SCHOOL が 7 年目を迎え、長く在校する子どもが増えた。落ち着きが出た子も多く、変化を顕著に見ることができた。卒業生も増え、その後の活躍を聞く機会もできたため、その話を聞いて安心される保護者もいる。低学年から卒業生まで時間の経過と共に年齢の縦のつながりが見れるようになったことが良い影響を与えている。

５．閉会

中山総合政策課長が、閉会の宣言をした。